

## 佐賀県多久市牟田辺遺跡出土の近世人骨

松下真実\*・川谷昭彦\*\*・松下孝幸\*\*\*

【キーワード】：佐賀県、近世人骨、倒置土器館墓、甕棺墓、高身長、柱状大腿骨

## はじめに

佐賀県<sup>たく</sup>多久市南多久町大字下多久に所在する牟田<sup>むたべ</sup>辺遺跡・桐野古墳群の発掘調査が佐賀県食肉センターの施設整備事業に伴って2003(平成15)年におこなわれ、近世に属する3基の甕棺から人骨が検出された。1基(ST-009)は倒置土器棺墓(土器を伏せた状態にしたもの)で、残りの2基は近世墓地(石井家墓地)から出土した甕棺墓である。山口県では中世の倒置土器棺墓の出土例があり、人骨も出土しているが、近世の倒置土器棺墓は存在しない。佐賀県でもこれまで近世の倒置土器棺墓の例を聞いたことがない。また、佐賀県以外の地域についても近世の倒置土器棺墓例は存在しないのではないと思われる。

筆者らはかつて山口県防府市<sup>あが</sup>の上り熊遺跡で中世の倒置土器棺墓から出土した人骨の調査をおこなったことがある。上り熊遺跡Ⅲ地区からは9基の倒置土器棺墓が検出され、そのうちの6基には人骨が残存していた(松下・他、2010)。保存状態は必ずしも良好なものではなかったが、特異な埋葬例であるだけに、埋葬姿勢と性別を推測することに留意し、現場での調査をおこなった。中世の倒置土器棺の出土例としては、山口市の問田片側遺跡と防府市<sup>たまのおや</sup>の玉祖遺跡の例がある。問田片側遺跡からは1基の倒置土器棺が出土している(小田村、1985)。報告書では火葬骨の蔵骨器としているが、骨は検出されていない。防府市の玉祖遺跡からは倒置された小型の甕が1基発見されており(山口県教育委員会、1983)、甕の中から幼児の歯冠(3~4歳)が検出されている。

佐賀県で出土した歴史時代の人骨で、筆者らが発掘調査や報告書作成に携わった遺跡は佐賀市の上天神遺跡(松下・他、1984)と森田遺跡(松下、2000)しかない。上天神遺跡の木棺からは平安時代末から鎌倉時代初頭に比定されている人骨が1体(男性・壮年)検出されており、森田遺跡3区からは鎌倉時代人骨が出土している。

倒置土器棺墓から出土した近世人骨の保存状態は比較的良好であった。また、石井家墓地から出土した人骨の保存状態もきわめて良好であった。人骨を解剖学的に精査し、人類学的観察や計測をおこなったので、その結果を報告しておきたい。

## 資 料

本遺跡の発掘調査で検出されたのは3体の人骨である(表1)。1体(ST-009)は、桐野古墳群9号墳(前方後円墳)(ST009)の墳丘に造墓された倒置土器棺から、別の2体(SK-7、SK-8)は10号墳(前方後円墳)(ST010)の墳丘内に営まれた石井家墓地内の甕棺から検出された。倒置土器棺墓から検出された人骨は壮年の男性骨で、石井家墓地から出土した2体の人骨のうち、1体(SK-7)は壮年の男性骨、もう1体(SK-8)は年齢不明の女性骨である(表2)。なお、年齢区分を表3に示



図1. 遺跡の位置 (1/25,000)

(Fig.1 Location of the Mutabe site, Taku City, Saga Prefecture)

した。

この3体の人骨は、埋葬容器である甕の考古学的所見から、近世に属する人骨である。なお、計測方法は、Martin-Saller (1957) によったが、脛骨の横径はオリビエの方法（前縁がノギスの針の中央に位置するようにして計測）で計測した。

本稿は、「多久・牟田辺の石井家」を川谷が、「要約」を松下孝幸が、その他は松下真実がそれぞれ分担して執筆した。

表1 資料数 (Table 1. Number of materials)

成人			幼小児	合計
男性	女性	不明		
2	1	0	0	3

表2 出土人骨一覧 (Table 2. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	備考
ST-009	男性	壮年	倒置土器棺墓
SK-7	男性	壮年	石井家墓地 甕棺、161.77cm、櫛、銭貨 (16枚)
SK-8	女性	不明	石井家墓地 甕棺、147.45cm、櫛、キセル

表3 年齢区分 (Table 3. Division of age)

年齢区分		年齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳 (第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6歳～15歳 (第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
	成年	16歳～20歳 (蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21歳～39歳 (40歳未満)
	熟年	40歳～59歳 (60歳未満)
	老年	60歳以上

注)成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(松下、1996c)を参照されたい。

## 所見

### I 人骨の検出状況と埋葬姿勢

3体とも、現場で人骨を実見していないが、1体は埋葬施設が倒置土器棺であることから、また、ほかの2体は甕棺であることから、3体とも埋葬姿勢は坐位だったと思われる。

### II 人骨の形質

各人骨の残存部は図2に示すとおりである。また、各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

## ST-009 (倒置土器棺墓人骨) (男性・壮年)

頭蓋(下顎骨を含む)、歯、鎖骨、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、大腿骨、脛骨、腓骨、環椎、距骨、足の骨が残存していた。

## 1. 頭蓋

## (1) 脳頭蓋

前頭骨の左側部の一部、左側頭頂骨、左側側頭骨、後頭骨左側部、上顎骨左側部の歯槽突起、下顎骨の左側半分が残存していた。遺存量はあまり多くはないが、骨質は硬く頑丈である。乳様突起は大きく、頬骨弓後方は著しく隆起している。外後頭隆起は強く突出しており、最上項線は明瞭で著しく線状に発達し、外側では隆起している。両側の外耳道の観察ができたが、骨腫は左右ともに認められない。

縫合は、三主縫合のうち冠状縫合とラムダ縫合の観察ができた。両縫合とも、内外両板は開離している。

下顎骨は左側下顎体が残存していた。下顎体の高径はやや高く、咬筋粗面の発達はきわめて良好で、下顎角は外反している。また、下顎枝の幅は広く、外側は凹んでいる。

## 2. 歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

/ 7 6 5 / / / /	① 2 3 4 ⑤ ⑥ / /
/ / / / 4 3 / /	/ 2 ③ ④ 5 6 7 8

[○: 歯槽開存 /: 不明(破損)、番号は歯種]

[1: 中切歯、2: 側切歯、3: 犬歯、4: 第一小白歯、5: 第二小白歯、6: 第一大臼歯、7: 第二大臼歯、8: 第三大臼歯]

咬耗度は Broca の 1 度(咬耗がエナメル質のみ)で、咬耗は弱い。歯の咬合形式は不明である。

## 3. 四肢骨

## (1) 上肢骨

肩甲骨、鎖骨、上腕骨、橈骨、尺骨が残存していた。

## ① 鎖骨

左側のみが残存していた。骨体は細い。

## ② 上腕骨

左側の骨体が残存していたが、中央部と遠位端を欠損している。残存部分の保存状態は良好である。骨体は太い。中央周は計測できないが、中央よりやや近位部での周径は 75mm もある。中央周はこれよりも小さくなると思われるが、70mm は超えていたことが予想され、本例の上腕骨は太いことがわかる。骨頭も大きく、大結節稜の発達はきわめて良好である。三角筋粗面の観察はできなかったが、発達はよかったようである。計測はほとんどできなかった。

## ③ 橈骨

左側の骨体が残存していた。遠近両端が欠損しているが、保存状態は良好である。長さはやや長い、骨体は上腕骨の太さに比べるとそれほど太くはない。また、骨間縁の発達もそれほど強いものではない。

## ④尺骨

左側の骨体が残存していた。両端を欠損しているが、保存状態は良好である。長さはやや長い、上腕骨の太さに比べると尺骨体はそれほど太いものではない。骨間縁はやや発達している。

## (2) 下肢骨

大腿骨、脛骨および腓骨が残存していた。

## ①大腿骨

両側の骨体が残存していた。右側骨体は表面剥離が著しい。骨体はあまり太いものではない。粗線の発達は弱く、骨体両側面の後方への発達も悪いが、骨体上部は扁平である。

計測値は、骨体上横径は 34mm (左)、骨体上矢状径は 24mm (左) で、上骨体断面示数は 70.59 (左) となり、骨体上部はかなり扁平である。

## ②脛骨

両側の骨体が残存していたが、表面剥離が著しく、保存状態は悪い。骨体はそれほど大きいものではない。ヒラメ筋線の様態は不明である。骨体の断面形は、左側はヘリチカのⅡ型(内側を底辺として骨間縁を頂点とする鈍角二等辺三角形)を呈しているが、右側は不明である。保存状態が悪く、計測はできなかった。

## ③腓骨

左側骨体の一部が残存していたにすぎない。保存状態は悪い。骨体は細い。

## 4. 性別・年齢

外後頭隆起の発達が良好で、最上項線は著しく発達しており、乳様突起も大きく、上腕骨が太いことから、性別を男性と推測した。年齢は、観察できた冠状縫合とラムダ縫合の内外両板がまだ開離していることから、壮年と思われる。

## S K-7 人骨(甕棺墓人骨)(男性・壮年)

頭蓋以外(下顎骨を除く)のほぼ全身骨が残存していた。頭蓋は改葬時に持ち去られている。

## 1. 下顎骨

下顎骨は完全である。下顎体の高径は低いが、オトガイ高は高い。下顎枝は著しく細い。下顎切痕は狭くて深い。オトガイ結節の発達は良好で、咬筋粗面も発達しており、下顎角は外反している。両側の第一大臼歯が脱落して歯槽が萎縮したために第二大臼歯は両側とも前方へ傾斜している。また、第二、第三大臼歯は両側とも舌側へ傾斜している。

## 2. 歯

下顎骨には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

8 7 6 5 4 3 2 1 | 1 2 3 4 5 6 7 8

〔●: 歯槽閉鎖、番号は歯種〕

〔1: 中切歯、2: 側切歯、3: 犬歯、4: 第一小臼歯、5: 第二小臼歯、6: 第一大臼歯、7: 第二大臼歯、8: 第三大臼歯〕

咬耗度は Broca の 1 度(咬耗がエナメル質のみ)で、咬耗は弱い。左側第二大臼歯咬合面に齶蝕が認められる。また、右側第三大臼歯の舌側にエナメル滴が認められる。

### 3. 四肢骨

#### (1) 上肢骨

肩甲骨、鎖骨、上腕骨、橈骨、尺骨および手の骨（手根骨、中手骨、指骨）の一部が残存していた。

##### ①鎖骨

両側が残存していた。保存状態は良好である。長さは長く、細い。

##### ②上腕骨

両側とも完全である。長さは短く、骨体は細い。三角筋粗面の発達が悪い。

計測値は、最大長が296mm（左右）、骨体最小周は61mm（右）、60mm（左）、中央周は65mm（右）、62mm（左）で、長厚示数は20.61（右）、20.27（左）で、上腕骨はきゃしゃである。また、中央最大径は22mm（右）、20mm（左）、中央最小径は18mm（左右）で、骨体断面示数は81.82（右）、90.00（左）となり、骨体には扁平性は認められない。

##### ③橈骨

両側が残存していた。保存状態は良好で、両側ともほぼ完全である。長さはやや長く、骨体は細い。骨間縁の発達は良好である。

##### ④尺骨

両側が残存していた。保存状態は良好で、ほぼ完全である。長さはやや長く、骨体は細い。右側は骨間縁の発達が良好である。

#### (2) 下肢骨

寛骨、大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨および足の骨（足根骨、中足骨、指骨）が残存していた。

##### ①寛骨

両側とも恥骨結合部分を欠損しているが、遺存状態は良好である。大坐骨切痕の角度は小さい。耳状面前溝は認められない。

##### ②大腿骨

両側とも完全である。長さはやや長く、骨体は男性としては太いものではない。粗線の発達は悪いが、骨体両側面の後方への発達は良好である。骨体上部には扁平性は認められない。

計測値は、最大長が428mm（右）、432mm（左）、骨体中央周は85mm（左右）で、長厚示数は20.00（右）、19.86（左）となり、骨体はきゃしゃである。骨体中央矢状径は29mm（左右）、横径は24mm（左右）で、骨体中央断面示数は120.83（左右）となり、粗線の発達は悪いが、骨体両側面の後方への発達は良好である。また、骨体上横径は30mm（左右）、骨体上矢状径は27mm（右）、24mm（左）で、上骨体断面示数は90.00（右）、80.00（左）となり、右側の骨体上部には扁平性は認められない。

##### ③脛骨

両側ともほぼ完全である。長さは短く、骨体は太い。前縁は中央部で鋭くS字状のカーブを描いている。ヒラメ筋線の発達は悪い。骨体の断面形は両側ともヘリチカのV型（後面が卵円形）を呈している。

計測値は、脛骨最大長が332mm（左右）、骨体周は86mm（右）、87mm（左）、最小周は78mm（右）、

77mm (左) で、骨体は大きく、長厚示数は 23.49 (右)、23.19 (左) となり、骨体は頑丈である。中央最大径は 31mm (右)、32mm (左)、中央横径は 23mm (右)、24mm (左) で、中央断面示数は 74.19 (右)、75.00 (左) となり、骨体には扁平性は認められない。

#### ④腓骨

両側ともほぼ完全である。長さはやや長く、骨体は細く、扁平である。稜の発達はそれほどよくないが、溝はやや深い。

#### 4. 躯幹骨

仙骨はほぼ完全である。椎骨は 24 個すべてと肋骨も 12 対すべてが残存していたが、胸骨は残っていなかった。改葬の際に胸骨は取り上げられたものと思われる。

#### 5. 推定身長値

大腿骨最大長から、Pearson および藤井の式を用いて推定身長値を算出すると、それぞれ 161.77cm (Pearson、右)、162.52cm (Pearson、左)、160.62cm (藤井、右)、161.56cm (藤井、左) となり、160cm を超え、わずかに高身長である。

#### 6. 性別・年齢

性別は、四肢骨がやや大きく、大坐骨切痕の角度が小さいことから、男性と推定した。年齢は、仙骨の第 1 仙椎と第 2 仙椎とが遊離 (開離) していることや、腸骨稜骨端板の癒合線が明瞭なこと、椎体に棘形成などの老化兆候がまったくみられないこと、橈骨に骨端癒合線がまだ認められることから壮年と推定した。

#### SK-8 人骨 (甕棺墓人骨) (女性・年齢不明)

頭蓋以外 (下顎骨を除く) のほぼ全身骨が残存していた。

#### 1. 下顎骨

下顎骨は完全である。下顎体の高径はやや低い。下顎枝はかなり低く、幅はやや広い。下顎切痕は広くて、浅い。オトガイ結節の発達は弱く、咬筋粗面の発達は著しく弱い。

#### 2. 歯

下顎骨には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

⑧ 7 6 5 4 3 2 1 | 1 2 3 4 5 6 7 ⑧

〔●: 歯槽閉鎖、番号は歯種〕

〔1: 中切歯、2: 側切歯、3: 犬歯、4: 第一小臼歯、5: 第二小臼歯、6: 第一大臼歯、7: 第二大臼歯、8: 第三大臼歯〕

咬耗度は Broca の 2 度 (咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ) である。左側第一大臼歯近心面に齶蝕が認められる。

#### 3. 四肢骨

##### (1) 上肢骨

肩甲骨、鎖骨、上腕骨、橈骨、尺骨、手の骨が残存していたが、手の骨は一部しか残存していない。

#### ①鎖骨

左側が残存していた。保存状態は良好である。長さは短く、細い。

## ②上腕骨

右側の骨体が残存していた。上腕骨頭を欠損しているが、保存状態は良好である。長さは短く、骨体はやや太く、三角筋粗面の発達は良好である。

計測値は、中央最大径が22mm(右)、中央最小径は15mm(右)で、骨体断面示数は68.18(右)となり、骨体には強い扁平性がみられる。骨体最小周は55mm(右)、中央周は62mm(右)で、骨体は細い。

## ③橈骨

両側が残存していた。右側はほぼ完全であるが、左側は遠位部が残っていたにすぎない。長さは短く、骨体は細い。骨間縁の発達は良好である。

## ④尺骨

両側が残存していた。右側は遠位部が欠損している以外はほぼ完全であるが、左側は遠位部のみが残存していた。長さは短く、骨体は細い。骨間縁の発達はよくない。

## (2) 下肢骨

寛骨、大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨および足の骨が残存していたが、足の骨は一部しか残存していない。

## ①寛骨

両側の腸骨体が残存していた。保存状態は比較的良好である。大坐骨切痕の角度は大きい。耳状面前溝が認められ、その幅は広い。

## ②大腿骨

両側とも残存しているが、両側とも遠位端を欠損している。保存状態は良好である。長さは短く、骨体は近世人としてはやや大きい。粗線は幅広く、それほど発達していないが、骨体両側面の後方への発達はやや良好である。骨体上部には扁平性は認められない。

計測値は、骨体中央矢状径が26mm(右)、25mm(左)、横径は23mm(左右)で、骨体中央断面示数は113.04(右)、108.70(左)となり、粗線の発達は悪いが、骨体両側面の後方への発達はやや良好である。骨体中央周は78mm(右)、77mm(左)で、骨体は細い。また、骨体上横径は27mm(左右)、骨体上矢状径は24mm(左右)で、上骨体断面示数は88.89(左右)となり、骨体上部には扁平性は認められない。

## ③脛骨

両側ともほぼ完全である。長さは短く、骨体は細い。前縁は鋭くS字状のカーブを描いている。ヒラメ筋線の発達は悪い。骨体の断面形は両側ともヘリチカのⅡ型(内側を底辺として骨間縁を頂点とする鈍角二等辺三角形)を呈している。

計測値は、脛骨最大長が316mm(左右)、骨体周は73mm(右)、71mm(左)、最小周は67mm(右)65mm(左)で、骨体は小さく、長厚示数は21.68(右)、21.17(左)となり、骨体はややきゃしゃである。中央最大径は25mm(右)、24mm(左)、中央横径は20mm(左右)で、中央断面示数は80.00(右)、83.33(左)となり、骨体には扁平性は認められない。

## ④腓骨

両側ともほぼ完全である。長さは短く、骨体は細いが、稜はやや発達しており、溝はやや深い。

#### 4. 軀幹骨

仙骨の一部、頸椎 2 個、胸椎 11 個、腰椎 2 個が残存していたが、保存状態は悪い。

#### 5. 推定身長値

脛骨全長と脛骨最大長から、Pearson および藤井の式を用いて推定身長値を算出すると、それぞれ 147.45cm (Pearson、右)、146.98cm (Pearson、左)、147.39cm (藤井、右)、147.70cm (藤井、左) となり、身長は低い。

#### 6. 性別・年齢

性別は、大坐骨切痕の角度が大きく、四肢骨が細いことから、女性と推定した。年齢は、推測できる部位が残存していないので不明である。

### 考 察

石井家墓地出土の人骨は 2 体とも頭蓋が残存していないので、四肢骨について、福岡県の近世人骨と比較してみた。

#### 1. 上腕骨

表 4 は、男性上腕骨の比較表である。SK-7 人骨の上腕骨最大長は 296mm で、室町 12 地点 ST01 の 305mm、上清水と日焼の 301mm よりも小さく、長さは短い。中央周は 65mm で、開善寺の 60.10mm よりも大きい、日焼の 67.50mm、生往寺（京町第 3 地点）の 67.17mm、上清水の 66.91mm よりも小さく、宗玄寺の 65.74mm、京町 66.34mm、京町第 12 地点の 66mm と大差なく、骨体はやや細い。骨体断面示数は 81.82 となり、表 4 では最大値となり、骨体の扁平性は弱い。

表 5 は、女性の上腕骨の比較表である。SK-8 人骨の中央周は 62mm で、表 5 では日焼の 64.00mm に次いで大きく、上腕骨体は女性としてはやや大きい。骨体断面示数は 68.18 となり、表 5 では最小値を示し、骨体には強い扁平性がみられる。

#### 2. 大腿骨

表 6 は、男性大腿骨の比較表である。SK-7 人骨の最大長は 428mm で、表 6 では最大値を示し、大腿骨の長さは長い。骨体中央周は 85mm で、日焼の 89.75mm、上清水の 88.50mm、普濟院の 86.33mm に次いで大きい、男性としては骨体の径は大きくはない。男性では、85mm よりも大きい集団（日焼、上清水）と 85mm よりも小さい集団（石井家墓地、開善寺、生往寺、宗玄寺、京町）に二分できるが、前者は非武家集団で、後者は武家集団と商人集団である。骨体中央断面示数は 120.83 で、表 6 では最大値となり、骨体両側面の後方への発達は良好である。また、上骨体断面示数は 90.00 となり、表 6 では最大値を示し、骨体上部には扁平性はみられない。

表 7 は、女性大腿骨の比較表である。SK-8 人骨の骨体中央周は 78mm で、日焼の 78.50mm と大差なく、他の比較資料よりは大きい。骨体中央断面示数は 113.04 で、表 7 では最大値となり、男性と同様に骨体両側面の後方への発達は良好である。また、上骨体断面示数は 88.89 となり、普濟院の 100.00 に次いで大きく、骨体上部の扁平性は認められない。

#### 3. 脛骨

表8は、男性脛骨の比較表である。SK-7人骨の脛骨最大長は340mmで、表8では最大値を示している。骨体周は86mmで、表8では最大値を示し、脛骨の径は大きい。中央断面四肢示数は74.19で、日焼の74.75、生往寺の75.473、開善寺の74.34に次いで大きく、骨体には扁平性は認められない。長厚示数は23.49となり、日焼の23.62に近く、骨体は頑丈である。

表9は、女性脛骨の比較表である。SK-8人骨の脛骨最大長は316mmで、日焼の326.50mmに次いで長い。骨体周は73mmで、日焼の74.00mmに次いで大きい。中央断面示数は80.00で、普濟院の90.91に次いで大きく、骨体には扁平性はみられない。

#### 4. 推定身長値

表10は、男性の推定身長値の比較表である。SK-7人骨の大腿骨からの推定値は161.77cmで、京町第6地点の162.33cmに次いで高く、恒見の161.58cmと大差なく、身長は高い。

表11は、女性の推定身長値の比較表である。SK-8人骨の脛骨からの身長値は147.45cmで、日焼の149.92cmに次いで高いが、女性は縄文人の平均値並みの低身長である。

#### 5. 石井家墓地出土人骨の特徴

男性上腕骨の特徴は、長さが短く、骨体はそれほど太いものではなく、三角筋の発達も弱く、骨体には扁平性が認められず、骨体はきゃしゃであることである。一方、女性上腕骨は、骨体が太く、扁平であり、三角筋粗面の発達は良好である。男女で上腕骨の大きさと形態に差が認められるが、男性が壮年期で死去していることと関係があるのかもしれない。大腿骨では、男性では長さが長く、骨体の大きさは、非武家集団の上清水、日焼よりも小さいが、武家集団の宗玄寺、京町第3地点、開善寺よりも大きい。女性の骨体は太く、その大きさは日焼に近い。注目すべきは、男女とも骨体中央断面示数が大きく、男性は120.83、女性は113.04となり、近世人とは思えない示数値を示すことである。これは骨体両側面が後方へ延伸していることによるが、このような形態は大腿四頭筋などの大腿部の筋の発達を物語っている。膝関節を強力に屈伸していたことがうかがえる。一方、脛骨は男女とも骨体が太く、頑丈である。扁平性は認められないので、足指の底屈運動は常態化していないが、下肢筋や下肢骨に負担がかかっていたことが予想される。武家層の男女と予想していたので、武芸にかかわる上肢筋の発達も下肢筋の発達と同様に予想していた。女性では、上肢筋と下肢筋の発達がよかったことが推測されたが、男性では上肢筋の発達はみられず、下肢筋の発達がかなりよかったことがうかがえた。被葬者の属する階層による労働形態だけではなく、被葬者の栄養状態や健康状態などが微妙に骨に影響を与えていたことが予想される。

#### 6. 多久・牟田辺の石井家

石井家墓地にある2基の甕棺から2体(SK-7、SK-8)の人骨が出土した。この墓地には墓石が残っており、その墓石群のなかに、「石井清左衛門忠恕」と刻まれている墓石(SK-5)があり、その場所が2体の人骨が出土した墓に近いことから、多久家の家臣であった石井家との関わりが考えられる。

石井家は藤原氏に出自し、建長二年(1250)、<sup>ただひら</sup>忠衡の時、関東に下向して下総国<sup>さしまぐんいらいごう</sup>猿島郡石井郷に住み、<sup>ただひら</sup>忠衡の子、<sup>ただみつ</sup>忠光が初めて石井氏を称した。<sup>ただみつ</sup>忠光より七世である忠国は千葉氏の縁に依って肥前国小城郡に來住した(佐賀県立図書館1978)。

石井家が仕えた千葉氏は桓武平氏<sup>かんむへいしたかもちおう</sup>高望王の流れで東国に土着し、千葉常胤<sup>つねたね</sup>の時に源頼朝を助け鎌倉

幕府の成立に大きな役割を果たした。それにより、東国御家人の重鎮として下総国守護となり、薩摩・大隅・豊前に多くの所領を獲得し、肥前国小城郡の「郡惣地頭職」もその一つとされている（肥前千葉氏調査委員会 2011）。

千葉頼胤の時代に蒙古襲来があり、東国御家人に対し九州への下向が命じられた。頼胤は文永の役の時の傷により建治元年（1275）八月に小城で亡くなり、代わって嫡子の宗胤が小城に下向した。その後、宗胤の嫡子である胤貞が下総から小城に下向したとき、下総国の地を名字とした家臣も数多く小城に移住した。その中に相馬郡（坂東市）の石井（岩井）氏がいた（肥前千葉氏調査委員会 2011）。

石井忠国の子である忠保は佐嘉郡飯盛に移り住み、忠保の子忠義には長子の忠清以下五子がいいて、それぞれ家をおこして石井家の繁栄の基礎を築いた。そのころから龍造寺氏への従属関係も深められ、神埼田手畷の戦いに参戦し、特に天文二十二年（1553）、筑後に亡命していた龍造寺隆信が佐賀に帰来したときには一族を挙げて貢献したとあり（佐賀県立図書館 1978）、龍造寺隆信の弟である家信（長信）が水ヶ江城の城主になったとき、その長臣に五男の石井兼清（忠房）が尾張守として仕えた（佐賀市史編さん委員会 1977）。

龍造寺長信が元龜元年（1570）に小田鎮光を多久城（梶峰城）から追って入城し、龍造寺長信から多久安順（龍造寺与兵衛）に至る多久領草創期には水ヶ江以来の辛苦を共にした吉岡、南里、石井、村山氏を含め七家が家老職の勤を果たしたと書かれている（多久市史編さん委員会 2002）。

龍造寺隆信の戦死後、国政権は鍋島直茂にゆだねられ、龍造寺長信は隠居し、その子である龍造寺与兵衛は慶長十三年（1608）多久安順と名乗り、鍋島直茂の娘を妻とした（多久市史編さん委員会 2002）。

鍋島藩の武士の身分は御三家、御親類、御親類同格、御家老、着座などという序列が本藩を中心に作られ、その中で多久家は御親類同格とされ（高野和夫 1994）、鍋島藩の請役家老となり執政を行うなど（多久市史編さん委員会 2002）、鍋島藩体制と深い関わりを持っていた。

石井家はその多久において「馬乗通」という乗馬級の水ヶ江龍造寺譜代家臣であったとされ、その後裔が代々処遇され世襲している（多久市史編さん委員会 2002）。

今回、牟田辺遺跡で検出された SK-5 には「石井清左衛門忠恕」と刻まれた墓石があり、佐賀県立図書館に所蔵されている石井家の系譜が書かれた「石井系譜 四、石井系譜五男家、五巻之内」（複写本）にも「清左衛門忠恕」の名前があったことから、石井家五男の兼清に繋がる石井一族の子孫との確認ができた。他にも「石井忠夫の墓 大正三年六月十九日亡」と刻まれた墓石が調査区内で出土しており、同じ区域内で検出された SK-7、SK-8 人骨も石井家一族の可能性はある。

## 要約

佐賀県多久市南多久町大字下多久所在する牟田辺遺跡・桐野古墳群の発掘調査が 2017（平成 29）年度におこなわれ、桐野古墳群中の 9 号墳と 10 号墳の墳丘に営まれた墓から人骨が検出された。取り上げられた 3 体の人骨の保存状態は良好であったので、計測や観察をおこない、以下の結果を得た。

1. 3 基の甕棺から 3 体の人骨が検出された。1 体（ST-009）は倒置土器棺墓から出土した人骨で、

- 壮年・男性骨である。ほかの2体は石井家墓地の甕棺墓から出土した人骨で、1体（SK-7）は壮年・男性骨、もう1体（SK-8）は年齢不明の女性骨である。
2. 3体の人骨は、考古学的所見から、18世紀後半に属する近世人骨である。
  3. 倒置土器棺墓から出土した人骨については、頭蓋の遺存量は少なく、頭型や顔面の様態は明らかにできなかったが、外後頭隆起や最上項線の発達はきわめて良好であった。上腕骨は太く、筋の附着部も発達していることから、上肢筋の発達も良好であったと思われるが、その割には前腕の骨（橈骨と尺骨）は細く、また大腿骨や脛骨もそれほど太くないものではない。倒置土器棺墓という特殊な埋葬から、特殊な事情が推察される。被葬者の形質的特徴だけではなく、疾病や死に至った原因などが推測できないか、人骨を詳細に調べたが、手がかりを得ることはできなかった。
  4. 石井家墓地から出土した2体はともに改葬時に頭蓋を取り上げられているので、頭蓋は残存していない。従って、頭型や顔面の形態は不明である。
  5. 男性上腕骨は、最大長が296mm（左右）で、長さは短く、中央周は65mm（右）、62mm（左）で、長厚示数は20.61（右）、20.27（左）となり、上腕骨はきゃしゃである。また、骨体断面示数は81.82（右）、90.00（左）となり、左側骨体には扁平性は認められない。  
女性上腕骨は、骨体断面示数が68.18（右）となり、骨体には強い扁平性がみられる。骨体最小周は55mm（右）、中央周は62mm（右）で、骨体は大きい。
  6. 男性大腿骨は、最大長が428mm（右）、432mm（左）で長さは長い。骨体中央周は85mm（左右）で、長厚示数は20.00（右）、19.86（左）となり、骨体はきゃしゃである。骨体中央断面示数は120.83（左右）となり、粗線の発達は悪いが、骨体両側面の後方への発達は良好である。また、上骨体断面示数は90.00（右）、80.00（左）となり、右側の骨体上部には扁平性は認められない。  
女性大腿骨は、骨体中央断面示数が113.04（右）、108.70（左）となり、粗線の発達は悪いが、骨体両側面の後方への発達はやや良好である。骨体中央周は78mm（右）、77mm（左）で、骨体は細い。また、上骨体断面示数は88.89（左右）となり、骨体上部には扁平性は認められない。
  7. 男性脛骨は、脛骨最大長が332mm（左右）、骨体周は86mm（右）、87mm（左）、最小周は78mm（右）、77mm（左）で、骨体は大きく、長厚示数は23.49（右）、23.19（左）で、骨体は頑丈である。中央断面示数は74.19（右）、75.00（左）となり、骨体には扁平性は認められない。  
女性脛骨は、脛骨最大長が316mm（左右）、骨体周は73mm（右）、71mm（左）、最小周は67mm（右）、65mm（左）で、骨体は小さく、長厚示数は21.68（右）、21.17（左）で、骨体はややきゃしゃである。中央断面示数は80.00（右）、83.33（左）となり、骨体には扁平性は認められない。
  8. 男性では大腿骨の長さの割には、上腕骨と脛骨が短い傾向にあるが、女性ではそのような傾向はみられない。
  9. 大腿骨最大長から算出した男性の推定身長は、161.77cm（Pearson、右）、162.52cm（Pearson、左）、160.62cm（藤井、右）、161.56cm（藤井、左）となり、高身長である。脛骨全長と脛骨最大長から算出した女性の推定身長値は、147.45cm（Pearson、右）、146.98cm（Pearson、左）、147.39cm（藤井、右）、147.70cm（藤井、左）となり、低身長である。
  10. 今回出土した2体の人骨は石井家墓地から出土したことから、多久氏の家臣であった石井家一

族の縁者と推測される。埋葬施設は甕棺であるが、甕棺を埋葬に使用するの、武家や士族に限られていることから、この墓地は石井家一族の墓と考えて差し支えないものと思われる。人骨についても上層階級にみられる下顎骨のきゃしゃさが認められ、男性（SK-7 人骨）ではその傾向が顕著である。女性（SK-8 人骨）では身長は低いが、上肢筋と下肢筋はよく鍛えられていたことがうかがえた。男性はわずかに高身長で、下肢筋は発達していたようであるが、上肢筋の発達がそれほどなく、体の動かし方にアンバランスな面があったようである。それは被葬者が早世したことと関係があるのかもしれない。

### 謝辞

《擲筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた多久市教育委員会の皆様に感謝致します。》

### 《参考文献1 人骨関係》

1. Martin-Saller, 1957: Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1. Gustav Fischer Verlag, Stuttgart: 429-597.
2. 松下真実・他、2010a: 北九州市蒲生石棺群C区出土の近世人骨。蒲生石棺群（北九州市埋蔵文化財調査報告書第425集）: 204-212.
3. 松下真実・他、2010b: 北九州市恒見遺跡出土の近世人骨。恒見遺跡（北九州市埋蔵文化財調査報告書第434集）: 41-66.
4. 松下真実・他、2011a: 下関市大乘寺出土の近世人骨。長門国府跡人骨編（下関市文化財調査報告書30）: 30-80.
5. 松下真実・他、2011b: 山口県柳井市吉毛遺跡出土の中・近世人骨。山口考古第31号: 49-88.
6. 松下真実、2012: 山口県山口市朝田墳墓群VI地区出土の近世人骨。土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム研究紀要第7号: 1-34.
7. 松下孝幸・他、1984: 佐賀市上天神遺跡出土の人骨。蓮池上天神遺跡（佐賀江川激甚災害対策特別緊急工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書）: 23-26.
8. 松下孝幸・他、1992: 北九州市上清水遺跡出土の近世人骨。上清水遺跡V区（奈良時代以降編）（北九州市埋蔵文化財調査報告書第117集）: 416-441.
9. 松下孝幸、1993: 北九州市京町遺跡出土の近世人骨。京町遺跡（北九州市文化財調査報告書第59集）: 177-248.
10. 松下孝幸・他、1994: 山口県豊北町大河浜遺跡出土の人骨。大河浜遺跡（山口県埋蔵文化財調査報告書第165集）: 11-21.
11. 松下孝幸、1995: 北九州市宗玄寺跡出土の近世人骨。宗玄寺跡（北九州市埋蔵文化財調査報告書第172集）: 502-542.
12. 松下孝幸、1996a: 北九州市普濟院跡出土の近世人骨。折尾横穴群内普濟院跡: 95-121.
13. 松下孝幸、1996b: 長崎県有川町頭ヶ島白浜遺跡出土の近世人骨。頭ヶ島白浜遺跡（有川町文化財調査報告書第1集）: 67-87.
14. 松下孝幸、1996c: 土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査出土の中世・弥生時代人骨。土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書（山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第12集）: 24-50.
15. 松下孝幸、1997: 福岡県犀川町古川平原古墳出土の古墳時代・近世人骨。古川平原古墳群（犀川町文化財調査報告書第5集）: 82-98.
16. 松下孝幸、1999: 北九州市常盤橋西勢溜り跡出土の近世・近代人骨。常盤橋西勢溜り跡（北九州市埋蔵文化財調査報告書第229集）: 付論1-12.
17. 松下孝幸、2000: 佐賀市森田遺跡3区出土の鎌倉時代人骨。森田遺跡II（佐賀市文化財調査報告書第110集）: 72-74.
18. 松下孝幸、2002: 北九州市京町遺跡第3地点出土の近世人骨。北九州市京町遺跡第3地点（北九州市生往寺境

- 内発掘調査報告)：99-140.
19. 松下孝幸、2003：上清水遺跡Ⅵ区出土の近世人骨。上清水遺跡Ⅵ区（北九州市埋蔵文化財調査報告書第290集）：53-66.
  20. 松下孝幸、2004：北九州市中貫ミカシキ遺跡出土の近世人骨。中貫ミカシキ遺跡（5a区の調査）（北九州市埋蔵文化財調査報告書第321集）：126-132.
  21. 松下孝幸、2005a：太宰府市日焼遺跡出土の近世人骨。太宰府・佐野地区遺跡群20 佐野土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書日焼遺跡第7次調査（太宰府市の文化財第80集）：389-427.
  22. 松下孝幸、2005b：開善寺跡出土の近世人骨。開善寺跡一デオデオ小倉本店建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書一（北九州市埋蔵文化財調査報告書第340集）：146-175.
  23. 松下孝幸、2005c：山口県柳井市向田遺跡出土の中・近世人骨。陶埴第18号（山口県埋蔵文化財センター年報一平成16年度一）：63-100.
  24. 松下孝幸・他、2008：防府市上り熊遺跡出土の中世人骨。上り熊遺跡Ⅰ（山口県埋蔵文化財センター調査報告第66集）：138-146.
  25. 松下孝幸・他、2009：防府市上り熊遺跡Ⅱ地区出土の中世人骨。上り熊遺跡Ⅱ（山口県埋蔵文化財センター調査報告第70集）：131-136.
  26. 松下孝幸・他、2010：防府市上り熊遺跡Ⅲ地区出土の中世人骨。上り熊遺跡Ⅲ（山口県埋蔵文化財センター調査報告第73集）：105-120.
  27. 松下孝幸・他、2016：北九州市京町遺跡第6地点出土の近世人骨。土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム研究紀要第11号：18-46.
  28. 松下孝幸・他、2017：北九州市室町遺跡第12地点出土の近世人骨。室町遺跡第12地点（北九州市埋蔵文化財調査報告書第564集）：26-44.
  29. 小田村宏、1985：間田片川遺跡（山口市埋蔵文化財調査報告第20集）、山口市教育委員会。
  30. 山口県教育委員会、1983：玉祖遺跡・西小路遺跡（山口県埋蔵文化財調査報告第70集）、山口県教育委員会。

《参考文献2 石井家関係》

1. 佐賀市史編さん委員会、1977：佐賀市史 第一巻（地理的環境・原始・古代・中世編）：570.
2. 佐賀県立図書館、1978：佐賀懸史料集成 古文書編 第19巻：4-5.
3. 高野和夫、1994：肥前鍋島家分限帳 青潮社歴史選書6：88-89、青潮社
4. 多久市史編さん委員会、2002：多久市史第二巻近世編：65-66、83、93、109、112.
5. 肥前千葉氏調査委員会、2011：中世肥前千葉氏の足跡～小京都小城の源流～：2、5-6.
6. 佐賀県立図書館、石井系譜四（複写本） 石井系譜 五男家 五巻之内：74.

\* Masami MATSUSHITA 特定非営利活動法人・人類学研究機構

\*\* Akihiko KAWATANI 特定非営利活動法人・人類学研究機構

\*\*\* Takayuki MATSUSHITA 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

表4 上腕骨計測値 (男性、右、mm) (Table 4. Comparison of measurements and indices of male right humeri)

	牟田辺		室町12地点		京 町		宗玄寺		開善寺		京町第3地点		上清水		日焼遺跡			
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M		
1. 上腕骨最大長	296	287.40	5	287.40	23	290.61	1	279	12	291.75	1	301	1	301	1	301		
2. 上腕骨全長	291	282.60	5	282.60	20	284.85	1	274	10	284.70	-	295	-	295	1	295		
5. 中央最大径	22	112	22.56	57	22.05	10	20.20	18	23.06	11	22.91	3	23.67	3	23.67	3	23.67	
6. 中央最小径	18	112	16.96	57	17.16	10	15.40	18	17.78	11	17.00	2	18.00	2	18.00	2	18.00	
7. 骨体最小周	61	89	62.13	49	61.84	11	57.45	17	65.35	8	62.25	3	64.00	3	64.00	3	64.00	
7 (a) . 中央周	65	112	66.34	57	65.74	10	60.10	18	67.17	11	66.91	2	67.50	2	67.50	2	67.50	
6/5 骨体断面示数	81.82	73.91	112	75.38	57	78.01	10	76.71	18	77.56	11	74.32	2	76.91	2	76.91	2	76.91
7/1 長厚示数	20.61	20.66	4	21.39	18	21.39	1	20.43	11	21.58	1	20.60	1	21.59	1	21.59	1	21.59

表5 上腕骨計測値 (女性、右、mm) (Table 5. Comparison of measurements and indices of female right humeri)

	牟田辺		京 町		宗玄寺		普濟院		京町第3地点		開善寺		上清水		日 焼	
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1. 上腕骨最大長	-	268.20	12	269.83	-	260.26	1	242	1	262	2	271.00	2	271.00	2	271.00
2. 上腕骨全長	-	263.60	10	265.20	-	259.13	1	239	1	239	2	268.00	2	268.00	2	268.00
5. 中央最大径	22	19.43	44	19.80	1	18	17	18.57	7	18.57	14	20.93	3	22.00	3	22.00
6. 中央最小径	15	14.65	44	14.66	1	14	17	13.86	7	13.86	14	14.71	3	17.00	3	17.00
7. 骨体最小周	55	53.62	36	54.47	1	52	16	50.43	7	50.43	8	55.50	3	59.00	3	59.00
7 (a) 中央周	62	56.65	44	57.64	1	53	17	53.86	7	53.86	14	60.07	3	64.00	3	64.00
6/5 骨体断面示数	68.18	75.71	44	74.27	1	77.78	17	77.09	7	74.81	14	70.49	3	77.27	3	77.27
7/1 長厚示数	-	19.87	9	20.20	-	20.34	1	19.01	1	16.41	2	22.51	2	22.51	2	22.51

表6 大腿骨計測値 (男性、右、mm) (Table 6. Comparison of measurements and indices of male right femora)

	牟田辺		京町		宗玄寺		普濟院		京町第3地点		開善寺		上清水		日焼	
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1. 最大長	428	15 401.27	23	407.83	-	-	8	405.75	1	389	-	-	1	413	1	413
2. 自然位全長	425	14 398.50	24	401.75	-	-	7	403.43	1	387	-	-	1	412	1	412
6. 骨体中央矢状径	29	162 26.56	45	26.78	3	26.67	23	26.48	6	26.50	8	26.63	4	29.00 (左)	4	29.00 (左)
7. 骨体中央横径	24	162 26.99	45	25.93	3	27.67	23	25.83	6	24.83	8	29.38	5	28.20 (左)	5	28.20 (左)
8. 骨体中央周	85	161 84.91	44	83.41	3	86.33	23	82.30	6	81.17	8	88.50	4	89.75 (左)	4	89.75 (左)
9. 骨体上横径	30	137 31.93	47	31.28	2	33.00	20	30.50	11	29.27	9	33.56	5	31.00 (左)	5	31.00 (左)
10. 骨体上矢状径	27	136 24.41	47	24.49	2	25.50	20	23.90	11	22.91	9	24.11	5	25.20 (左)	5	25.20 (左)
8/2. 長厚示数	20.00	13 20.44	16	20.87	-	-	6	20.24	1	23.00	-	-	1	22.33	1	22.33
6/7 骨体中央断面示数	120.83	162 98.98	45	103.32	3	96.25	23	102.94	6	106.99	8	91.51	4	104.15 (左)	4	104.15 (左)
10/9 上骨体断面示数	90.00	136 76.94	47	78.57	2	78.06	20	78.53	11	78.40	9	72.65	5	81.71 (左)	5	81.71 (左)

表7 大腿骨計測値 (女性、右、mm) (Table 7. Comparison of measurements and indices of female right femora)

	牟田辺		京町		宗玄寺		普濟院		京町第3地点		開善寺		上清水		日焼	
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1. 最大長	-	6 367.17	15	370.93	-	-	4	360.50	2	370.00	3	371.67	2	393.50	2	393.50
2. 自然位全長	-	5 368.80	14	367.64	-	-	4	356.00	2	366.00	1	362	2	389.50	2	389.50
6. 骨体中央矢状径	26	87 23.13	49	23.22	1	23	16	23.06	8	22.75	17	22.24	4	25.25	4	25.25
7. 骨体中央横径	23	87 23.52	49	23.86	1	25	17	23.71	8	22.63	17	25.76	4	25.00	4	25.00
8. 骨体中央周	78	87 73.48	49	74.18	1	74	16	73.44	8	71.50	17	76.88	4	78.50	4	78.50
9. 骨体上横径	27	73 27.86	51	27.88	1	29	17	27.88	9	26.33	17	29.59	4	31.00	4	31.00
10. 骨体上矢状径	24	73 21.03	50	21.36	1	20	17	20.53	9	20.33	17	20.76	4	23.00	4	23.00
8/2. 長厚示数	-	5 19.61	6	20.54	-	-	4	20.67	2	20.09	1	19.89	2	19.77	2	19.77
6/7 骨体中央断面示数	113.04	87 98.85	49	97.57	1	92.00	16	98.17	8	100.90	17	86.56	4	101.04	4	101.04
10/9 上骨体断面示数	88.89	73 75.67	50	77.34	1	100.00	17	73.81	9	78.25	17	70.42	4	74.64	4	74.64

表8 脛骨 (男性、右、mm) (Table 8. Comparison of measurements and indices of male right tibiae)

	牟田辺		京 町		宗玄寺		普濟院		京町第3地点		開善寺		上清水		日 焼		京町第6地点		
	近世人 佐賀県 多久市	n	近世人 福岡県 北九州市 (松下)	n	近世人 福岡県 北九州市 (松下)	n	近世人 福岡県 北九州市 (松下)	n	近世人 福岡県 北九州市 (松下)	n	近世人 福岡県 北九州市 (松下)	n	近世人 福岡県 北九州市 (松下)	n	近世人 福岡県 太宰府市 (松下)	n	近世人 福岡県 北九州市 (松下)	n	近世人 福岡県 北九州市 (松下)
1. 脛骨全長	332	7	324.57	21	326.19	-	12	324.75	-	1	346	1	324	-	-	-	-	-	
1 a. 脛骨最大長	340	6	327.83	22	332.55	-	12	330.33	-	2	(339.50)	1	331	-	-	-	-	-	
8. 中央最大径	31	81	28.23	43	28.02	1	30 (左)	19	27.84	11	26.73	10	28.90	1	31	2	28.50	2	20.00
9. 中央横径	23	82	20.76	43	20.51	1	22 (左)	19	20.95	11	19.82	10	20.60	1	23	2	20.00	2	78.50
10. 骨体周	86	81	77.07	43	77.02	1	84 (左)	19	77.05	11	73.09	10	79.40	2	84.00 (左)	2	78.50	1	75
10 b. 最小周	78	58	70.19	43	70.00	1	76 (左)	17	70.24	10	66.10	7	70.71	2	76.50 (左)	2	75.75 (左)	2	70.20
9/8. 中央断面示数	74.19	81	73.83	43	73.31	1	73.33 (左)	19	75.43	11	74.34	10	71.49	2	75.75 (左)	2	75.75 (左)	2	70.20
10 b/1. 長厚示数	23.49	7	20.93	15	21.68	-	11	21.30	-	1	20.23	1	23.62	-	-	-	-	-	

表9 脛骨 (女性、右、mm) (Table 9. Comparison of measurements and indices of female right tibiae)

	京 町		宗玄寺		普濟院		京町第3地点		開善寺		上清水		日焼遺跡	
	近世人 福岡県 北九州市 (松下)	n	近世人 福岡県 北九州市 (松下)	n	近世人 福岡県 北九州市 (松下)	n	近世人 福岡県 北九州市 (松下)	n	近世人 福岡県 北九州市 (松下)	n	近世人 福岡県 北九州市 (松下)	n	近世人 福岡県 北九州市 (松下)	n
1. 脛骨全長	297.50	2	305.67	9	-	-	5	293.20	2	287.00	1	280	2	319.50
1 a. 脛骨最大長	291	1	312.55	11	-	-	6	303.83	2	291.00	3	306.33	2	326.50
8. 中央最大径	24.35	37	24.03	34	1	22	13	23.62	8	22.25	12	24.50	4	27.75
9. 中央横径	17.97	37	17.67	34	1	20	14	17.43	8	16.63	12	18.42	4	19.50
10. 骨体周	67.35	37	66.65	34	1	66	13	65.69	8	62.75	12	69.25	4	74.00
10 b. 最小周	61.50	32	61.12	34	1	62	12	58.92	8	58.25	8	63.88	4	67.50
9/8. 中央断面示数	74.13	37	70.49	34	1	90.91	13	73.43	8	75.28	12	75.19	4	70.90
10 b/1. 長厚示数	19.80	2	20.11	8	-	-	5	20.57	2	19.52	1	21.79	2	20.97

表 10 推定身長値 (男性、右、cm) (Table 10. Comparison of estimated male statures) この表は体数で平均値を算出、両側あるものは右側を使用

Pearsonの式	牟田辺		恒見		日焼		天福寺		宗玄寺		京町		京町第3地点		京町第6地点		開善寺		室町12地点		上清水			
	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人								
上腕骨	156.30	-	157.75	-	157.75	-	157.75	-	32	155.79	8	153.37	14	154.96	-	-	2	150.66	158.91	158.91	-	-	-	
橈骨	162.14	-	159.20	-	159.20	-	159.20	-	35	157.85	5	154.81	15	158.78	-	-	6	155.11	(164.43)	(164.43)	-	-	-	
大腿骨	161.77	149.93	161.58	149.93	158.95	149.93	159.4	159.4	29	157.82	23	157.93	13	158.43	162.33	162.33	1	154.44	-	-	-	-	-	
脛骨	157.55	-	155.65	-	155.65	-	155.65	-	25	156.84	12	156.02	13	156.07	-	-	-	-	-	-	-	-	160.87	-
藤井の式	155.83	-	158.25	-	157.22	-	157.22	-	32	155.83	8	153.30	14	154.59	-	-	2	150.77	158.34	158.34	-	-	(157.22)	-
橈骨	159.56	-	157.32	-	157.32	-	157.32	-	35	155.53	5	152.42	15	156.41	-	-	6	153.01	(161.82)	(161.82)	-	-	-	-
大腿骨	160.62	144.81	160.31	144.81	156.91	144.81	156.91	156.91	29	155.31	23	155.54	13	156.19	161.31	161.31	1	150.98	-	-	-	-	-	-
脛骨	157.98	-	158.25	-	154.03	-	154.03	-	25	155.24	11	155.74	13	155.83	-	-	-	-	-	-	-	-	161.93	(153.78)

表 11 推定身長値 (女性、cm) (Table 11. Comparison of estimated male statures)-体数での値 (左右あるものは右を使用)

Pearsonの式	牟田辺		京町		宗玄寺		京町第3地点		開善寺		上清水		日焼	
	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人	近世人
上腕骨	-	148.75	145.65	145.72	145.72	144.36	144.36	138.12	138.12	143.63	143.63	146.80	146.80	
橈骨	-	150.15	150.15	146.95	146.95	147.01	147.01	144.68	144.68	-	-	148.59	148.59	
大腿骨	-	145.82	145.82	145.22	145.22	144.66	144.66	144.81	144.81	145.13	145.13	149.38	149.38	
脛骨	(147.45)	145.10	145.10	146.22	146.22	144.47	144.47	142.28	142.28	140.63	140.63	149.92	149.92	
藤井の式	-	145.48	145.48	145.58	145.58	144.41	144.41	138.90	138.90	143.66	143.66	146.60	146.60	

表 12 下顎骨 (mm、度)(Mandibula)

		牟田辺		
		ST-009	SK-7	SK-8
		男性	男性	女性
65	下顎関節突起幅	-	126	123
65(1).	下顎筋突起幅	-	103	98
66	下顎角幅	-	99	94
67	前下顎幅	-	42	48
68	下顎長	-	62	68
68(1).	下顎長	-	102	103
69	オトガイ高	-	(32)	29
69(1).	下顎体高	(右) -	30	32
		(左) 34	29	29
69(2).	下顎体高	(右) -	21	28
		(左) 26	21	26
70	枝高	(右) -	61	53
		(左) -	57	51
70(1).	前枝高	(右) -	63	52
		(左) -	62	53
70(2).	最小枝高	(右) -	50	41
		(左) -	49	41
70(3).	下顎切痕高	(右) -	15	15
		(左) -	15	15
71(1).	下顎切痕幅	(右) -	29	37
		(左) -	34	38
71	枝幅	(右) -	26	33
		(左) -	27	33
71a.	最小枝幅	(右) -	26	33
		(左) -	27	33
79	下顎枝角	(右) -	131	134
		(左) -	136	132
66/65	下顎幅示数	-	78.57	76.42
68/65	幅長示数	-	49.21	55.28
68(1)/65	幅長示数	(右) -	(80.95)	83.74
69(2)/69	下顎高示数	(右) -	(65.63)	96.55
		(左) -	(65.63)	96.55
71/70	下顎枝示数	(右) -	52.00	62.26
		(左) -	47.37	64.71
71a/70(2)	下顎枝示数	(右) -	52.00	80.49
		(左) -	55.10	80.49
70(3)/71(1)	下顎切痕示数	(右) -	57.72	40.54
		(左) -	44.12	39.47

表 13 肩甲骨 (mm) (Scapula)

			牟田辺	
			No.1	No.2
			男性	女性
12.	関節窩長	(右)	35	33
		(左)	34	-
13.	関節窩幅	(右)	26	23
		(左)	25	23
14.	関節窩深	(右)	6	5
		(左)	5	-
13/12	関節窩長幅示数	(右)	65.71	69.70
		(左)	73.53	-
14/12	関節窩彎曲示数	(右)	17.14	15.15
		(左)	14.71	-

表 14 鎖骨 (mm) (Clavicula)

			牟田辺	
			No.1	No.2
			男性	女性
1.	鎖骨最大長	(右)	-	-
		(左)	(144)	-
2 a	骨体彎曲高	(右)	32	-
		(左)	30	-
2(1)	肩峰端彎曲高	(右)	30	-
		(左)	26	-
4.	中央垂直径	(右)	10	-
		(左)	9	8
5.	中央矢状径	(右)	13	-
		(左)	12	12
6.	中央周	(右)	38	-
		(左)	36	33
6/1	長厚示数	(右)	-	-
		(左)	(25.00)	-
2 a /1	彎曲示数	(右)	-	-
		(左)	(20.83)	-
4/5	鎖骨断面示数	(右)	76.92	-
		(左)	75.00	66.67
2(1)/1	肩峰端彎曲示数	(右)	-	-
		(左)	(18.06)	-

表 15 上腕骨 (mm) (Humerus)

		牟田辺		
		ST-009	SK-7	SK-8
		男性	男性	女性
1. 上腕骨最大長	(右)	-	296	-
	(左)	-	296	-
2. 上腕骨全長	(右)	-	291	-
	(左)	-	292	-
3. 上端幅	(右)	-	47	-
	(左)	-	47	-
3(1). 横上径	(右)	-	48	-
	(左)	47	47	-
4. 下端幅	(右)	-	58	53
	(左)	-	57	-
5. 中央最大径	(右)	-	22	22
	(左)	-	20	-
6. 中央最小径	(右)	-	18	15
	(左)	-	18	-
7. 骨体最小周	(右)	-	61	55
	(左)	-	60	-
7 (a)中央周	(右)	-	65	62
	(左)	-	62	-
8. 頭周	(右)	-	129	-
	(左)	-	129	-
9. 頭最大横径	(右)	-	41	-
	(左)	39	42	-
10. 頭最大矢状径	(右)	-	42	-
	(左)	43	42	-
11. 滑車幅	(右)	-	22	18
	(左)	-	21	-
12. 小頭幅	(右)	-	17	15
	(左)	-	16	-
12 (a)滑車幅および小頭幅	(右)	-	4	38
	(左)	-	42	-
13. 滑車深	(右)	-	25	21
	(左)	-	24	-
14. 肘頭窩幅	(右)	-	24	24
	(左)	-	24	-
15. 肘頭窩深	(右)	-	11	12
	(左)	-	10	-
6/5 骨体断面示数	(右)	-	81.82	-
	(左)	-	90.00	-
7/1 長厚示数	(右)	-	20.61	-
	(左)	-	20.27	-

表 16 橈骨 (mm) (Radius)

		牟田辺		
		ST-009	SK-7	SK-8
		男性	男性	女性
1. 最大長	(右)	-	233	202
	(左)	-	-	-
1 b. 平行長	(右)	-	230	200
	(左)	-	-	-
2. 機能長	(右)	-	217	188
	(左)	-	213	-
3. 最小周	(右)	-	44	38
	(左)	45	43	-
4. 骨体横径	(右)	-	18	16
	(左)	18	17	-
4 a. 骨体中央横径	(右)	16	17	16
	(左)	-	16	-
4(1). 小頭横径	(右)	-	21	-
	(左)	-	-	-
4(2). 頸横径	(右)	-	15	11
	(左)	-	13	-
5. 骨体矢状径	(右)	-	12	10
	(左)	12	11	-
5 a. 骨体中央矢状径	(右)	-	12	10
	(左)	13	12	-
5(1). 小頭矢状径	(右)	-	23	19
	(左)	-	-	-
5(2). 頸矢状径	(右)	-	16	13
	(左)	-	14	-
5(3). 小頭周	(右)	-	70	-
	(左)	-	-	-
5(4). 頸周	(右)	-	48	39
	(左)	-	42	-
5(5). 骨体中央周	(右)	-	48	42
	(左)	48	45	-
5(6). 骨下端幅	(右)	-	34	28
	(左)	-	33	-
3/2 長厚示数	(右)	-	20.28	20.21
	(左)	-	20.19	-
5/4 骨体断面示数	(右)	66.67	66.67	62.50
	(左)	-	64.71	-
5 a / 4 ; 中央断面示数	(右)	-	70.59	62.50
	(左)	81.25	75.00	-

表 17 尺骨 (mm) (Ulna)

			牟田辺	
			SK-7	SK-8
			男性	女性
1.	最大長	(右)	241	-
		(左)	237	-
2.	機能長	(右)	239	-
		(左)	233	-
2(1).	肘頭尺骨頭長	(右)	217	-
		(左)	213	-
3.	最小周	(右)	37	35
		(左)	38	35
6.	肘頭幅	(右)	24	22
		(左)	-	-
6(1).	上幅	(右)	30	26
		(左)	-	-
7.	肘頭深	(右)	21	19
		(左)	19	-
8.	肘頭高	(右)	18	18
		(左)	19	-
11.	尺骨矢状径	(右)	12	11
		(左)	12	-
12.	尺骨横径	(右)	16	14
		(左)	16	-
S	中央最小径	(右)	12	11
		(左)	12	-
L	中央最大径	(右)	16	14
		(左)	16	-
C	中央周	(右)	48	43
		(左)	48	-
3/2	長厚示数	(右)	15.48	-
		(左)	16.33	-
11/12	骨体断面示数	(右)	75.00	78.57
		(左)	75.00	-
S/L	中央断面示数	(右)	75.00	78.57
		(左)	75.00	-

表 18 大腿骨 (mm) (Femur)

			牟田辺		
			ST-009	SK-7	SK-8
			男性	男性	女性
1.	最大長	(右)	-	428	-
		(左)	-	432	-
2.	自然位全長	(右)	-	425	-
		(左)	-	428	-
3.	最大転子長	(右)	-	402	-
		(左)	-	403	-
4.	自然位転子長	(右)	-	392	-
		(左)	-	393	-
6.	骨体中央矢状径	(右)	-	29	26
		(左)	-	29	25
7.	骨体中央横径	(右)	-	24	23
		(左)	-	24	23
8.	骨体中央周	(右)	-	85	78
		(左)	-	85	77
9.	骨体上横径	(右)	-	30	27
		(左)	34	30	27
10.	骨体上矢状径	(右)	-	27	24
		(左)	24	24	24
15.	頸垂直径	(右)	-	35	28
		(左)	-	33	27
16.	頸矢状径	(右)	-	27	23
		(左)	-	27	20
17.	頸周	(右)	-	102	83
		(左)	-	100	80
18.	頭垂直径	(右)	-	46	42
		(左)	-	47	41
19.	頭横径	(右)	-	46	41
		(左)	-	46	40
20.	頭周	(右)	-	147	134
		(左)	-	148	128
21.	上顆幅	(右)	-	-	-
		(左)	-	84	-
8/2	長厚示数	(右)	-	20.00	-
		(左)	-	19.86	-
6/7	骨体中央断面示数	(右)	-	120.83	108.70
		(左)	-	120.83	-
10/9	上骨体断面示数	(右)	-	90.00	88.89
		(左)	70.59	80.00	-

表 19 膝蓋骨 (mm) (Patella)

		牟田辺		
		SK-7	SK-8	
		男性	女性	
1.	最大高	(右)	41	35
		(左)	40	35
2.	最大幅	(右)	45	40
		(左)	46	-
3.	最大厚	(右)	20	18
		(左)	20	18
4.	関節面高	(右)	-	29
		(左)	(30)	29
5.	内関節面幅	(右)	21	18
		(左)	21	-
6.	外関節面幅	(右)	27	23
		(左)	27	25
1/2	膝蓋骨高幅示数	(右)	91.11	87.50
		(左)	86.96	-

表 21 腓骨 (mm) (Fibula)

		牟田辺		
		SK-7	SK-8	
		男性	女性	
1.	最大長	(右)	(331)	313
		(左)	(333)	-
2.	中央最大径	(右)	15	14
		(左)	16	13
3.	中央最小径	(右)	10	9
		(左)	9	9
4.	中央周	(右)	41	40
		(左)	42	37
4 a.	最小周	(右)	37	38
		(左)	38	35
4 b.	頸横径	(右)	12	13
		(左)	14	12
4 c.	頸矢状径	(右)	12	10
		(左)	13	10
4(1).	上端幅	(右)	28	26
		(左)	27	28
4(1 a).	上端矢状幅	(右)	-	23
		(左)	-	21
4(2).	下端幅	(右)	23	-
		(左)	22	19
4(2 a).	下端矢状幅	(右)	26	-
		(左)	25	23
3/2	中央断面示数	(右)	66.67	64.29
		(左)	56.25	69.23
4 a /1	長厚示数	(右)	(11.18)	12.14
		(左)	(11.41)	-

表 20 脛骨 (mm) (Tibia)

		牟田辺		
		SK-7	SK-8	
		男性	女性	
1.	脛骨全長	(右)	332	(309)
		(左)	332	307
1 a.	脛骨最大長	(右)	340	316
		(左)	338	316
1 b.	脛骨長	(右)	328	(309)
		(左)	325	307
2.	顆距間距離	(右)	316	297
		(左)	315	294
3.	最大上端幅	(右)	-	-
		(左)	-	-
3 a.	上内関節面幅	(右)	-	-
		(左)	-	-
3 b.	上外関節面幅	(右)	-	-
		(左)	-	27
4 a.	上内関節面深	(右)	-	-
		(左)	-	-
4 b.	上外関節面深	(右)	-	-
		(左)	-	32
6.	最大下端幅	(右)	56	48
		(左)	55	47
7.	下端矢状径	(右)	37	32
		(左)	36	32
8.	中央最大径	(右)	31	25
		(左)	32	24
8 a.	栄養孔位最大径	(右)	35	29
		(左)	34	27
9.	中央横径	(右)	23	20
		(左)	24	20
9 a.	栄養孔位横径	(右)	26	23
		(左)	26	22
10.	骨体周	(右)	86	73
		(左)	87	71
10 a.	栄養孔位周	(右)	99	84
		(左)	98	79
10 b.	最小周	(右)	78	67
		(左)	77	65
9/8.	中央断面示数	(右)	74.19	80.00
		(左)	75.00	83.33
9 a /8 a	栄養孔位断面示数	(右)	74.29	79.31
		(左)	76.47	81.48
10 b /1	長厚示数	(右)	23.49	(21.68)
		(左)	23.19	21.17

表 22 推定身長値 (cm) (Stature)

		牟田辺		
		SK-7	SK-8	
		男性	女性	
Pearsonの式	上腕骨	(右)	156.30	-
		(左)	156.30	-
	橈骨	(右)	162.14	148.75
		(左)	-	-
	大腿骨	(右)	161.77	-
		(左)	162.52	-
	脛骨	(右)	157.55	(147.45)
		(左)	157.55	146.98
藤井の式	上腕骨	(右)	155.83	-
		(左)	156.68	-
	橈骨	(右)	159.56	146.16
		(左)	-	-
	大腿骨	(右)	160.62	-
		(左)	161.56	-
	脛骨	(右)	157.98	147.39
		(左)	157.31	147.70

表 23 最大長の比

		牟田辺	
		SK-7	SK-8
		男性	女性
橈骨/上腕骨	(右)	78.72	-
	(左)	-	-
橈骨/尺骨	(右)	96.68	-
	(左)	-	-
橈骨/大腿骨	(右)	54.44	-
	(左)	-	-
橈骨/脛骨	(右)	68.53	63.92
	(左)	-	-
上腕骨/大腿骨	(右)	69.16	-
	(左)	68.52	-
上腕/脛骨	(右)	87.06	-
	(左)	87.57	-
脛骨/大腿骨	(右)	79.44	-
	(左)	78.24	-
腓骨/脛骨	(右)	(97.35)	99.05
	(左)	(98.52)	-
鎖骨/上腕骨	(右)	-	-
	(左)	(48.65)	-
上肢骨/下肢骨	(右)	68.88	-
	(左)	-	-

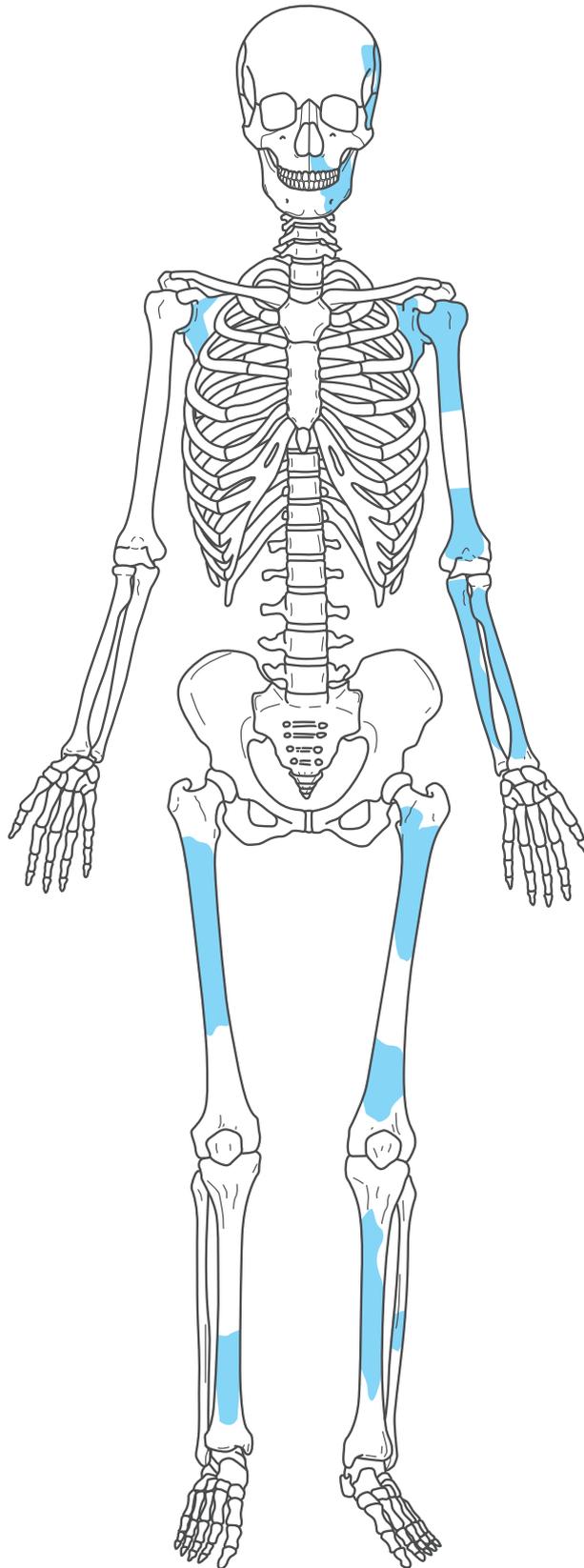
表 24 中央周の比

		牟田辺	
		SK-7	SK-8
		男性	女性
橈骨/尺骨	(右)	100.00	97.67
	(左)	93.75	-
橈骨/上腕骨	(右)	73.85	67.74
	(左)	72.58	-
鎖骨/上腕骨	(右)	58.46	-
	(左)	58.06	-
上腕骨/大腿骨	(右)	76.47	79.49
	(左)	72.94	-
上腕骨/脛骨	(右)	75.58	84.93
	(左)	71.26	-
脛骨/大腿骨	(右)	101.18	93.59
	(左)	102.35	92.21
腓骨/脛骨	(右)	47.67	54.79
	(左)	48.28	52.11

表 25 形態小変異 (Non-metoric crania variants)

	牟 田 辺					
	ST-009		SK-7		SK-8	
	男性		男性		女性	
	右	左	右	左	右	左
1. Medial palatine canal (内側口蓋管)	/	/	/	/	/	/
2. Pterygospinous foramen (翼棘孔)	/	/	/	/	/	/
3. Hypoglossal canal bridging (舌下神経管二分)	-	/	/	/	/	/
4. Clinoid bridging (床状突起間骨橋)	/	/	/	/	/	/
5. Condylar canal absent (顎間欠如)	/	/	/	/	/	/
6. Tympanic dehiscence, Foramen of Huschke(>1mm) (フシユケ孔、鼓室骨裂孔)	-	-	/	/	/	/
7. Jugular foramen bridgin	/	/	/	/	/	/
8. Precondylar tubercle	-	-	/	/	/	/
9. Supre-orbital foramen (incl.frontal foramen) (眼窩上孔)	/	/	/	/	/	/
10. Accesory intraorbital foramen (副眼窩下孔)	/	/	/	/	/	/
11. Zygo-facial foramen absent	/	/	/	/	/	/
12. Aural exostosis (外耳道骨腫)	-	-	/	/	/	/
13. Metopism (前頭縫合)	/		/		/	
14. Os incae (インカ骨)	/		/		/	
15. Ossicle at the lambda (ラムダ小骨)	/		/		/	
16. Parietal notch bone (頭頂切痕骨)	/	-	/	/	/	/
17. Transverse zygomatic suture (>5mm)	/	/	/	/	/	/
18. Asterionic ossicle	/	-	/	/	/	/
19. Occipitomastoid ossicle	/	-	/	/	/	/
20. Epipteric ossicl	/	/	/	/	/	/
21. Frontotemporal articulation	/	/	/	/	/	/
22. Biasterionic suture (>10mm)	/	/	/	/	/	/
23. Mylohyoid bridging (顎舌骨筋神経溝骨橋)	/	-	-	-	-	-
24. Accessory mental foramen (副オトガイ孔)	/	-	-	-	-	+
25. Mandibular torus (下顎隆起)	/	+	-	+	-	-
26. 滑車上孔 (上腕骨)	/	-	-	-	-	/

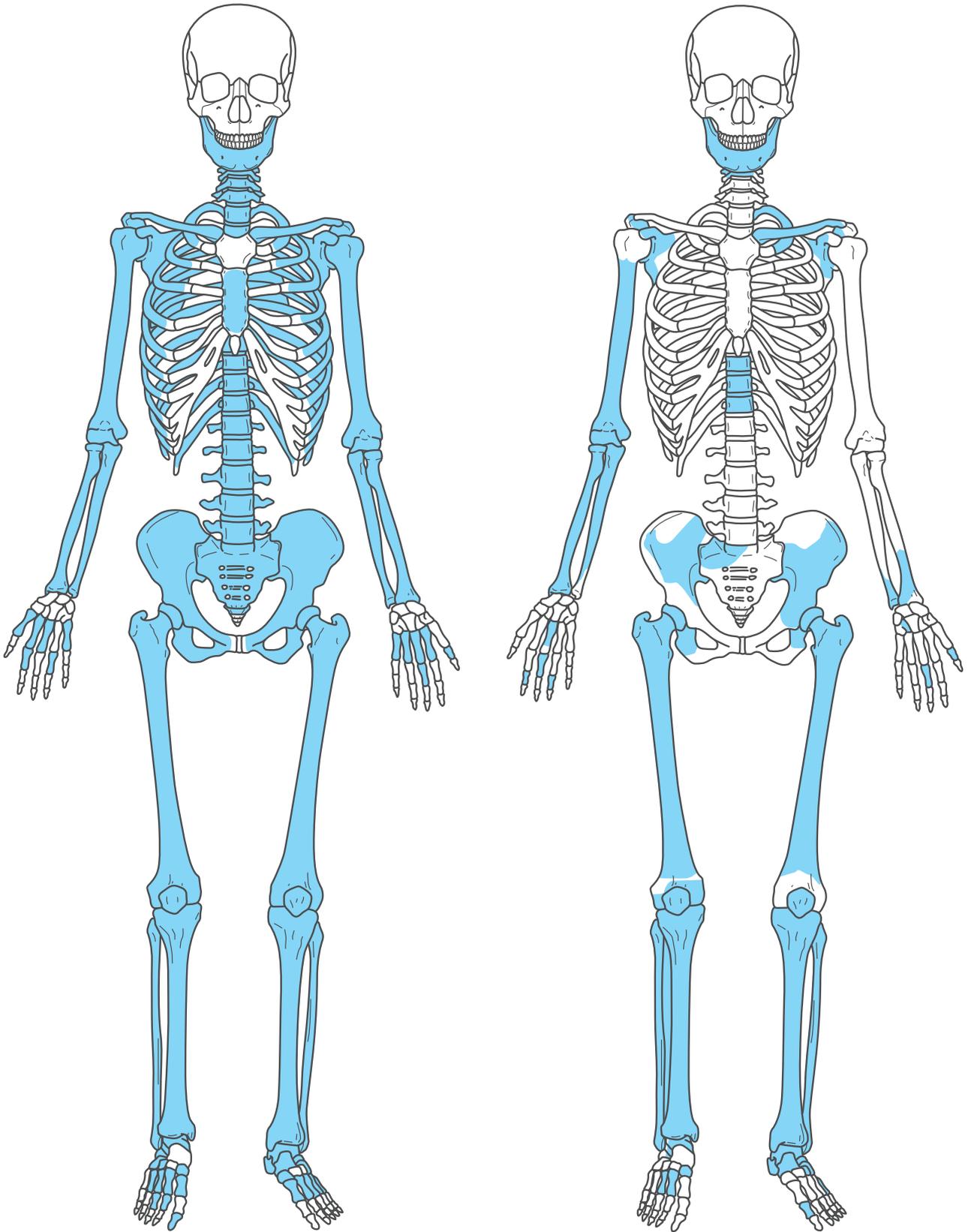
〔 present :+, absent : -, unobservale : / 〕



牟田辺ST-009(男性・壮年)

図2 人骨の残存図(アミかけ部分)

(Fig.2 Regions of preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved.)



牟田辺SK-7(男性・壮年)

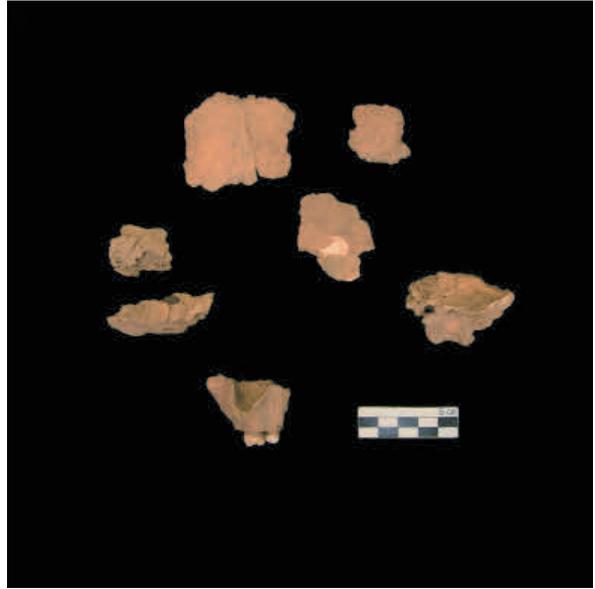
牟田辺SK-8(女性・年齢不明)

図2 人骨の残存図(アミかけ部分)

(Fig.2 Regions of preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved.)



頭蓋 (The skull)



頭蓋左側面 ( Left lateral view of the skull)



上顎骨・下顎骨 (The maxilla・The mandible)

牟田辺遺跡 ST-009 (男性・壮年)

( The skeleton ST-009 from the Mutabe site, young adult male )



肩甲骨 (The Scapula)



上肢骨 (Bones of the upper limb)



下肢骨 (Bones of the lower limb)

牟田辺遺跡 ST-009 (男性・壮年)

(The skeleton ST-009 from the Mutabe site, young adult male)



肩甲骨 (The Scapula) ・寛骨 (The Pelvis)

牟田辺遺跡 SK-7 (男性・壮年)

(The skeleton SK-7 from the Mutabe site, young adult male)



下顎骨 (The mandible)



上肢骨 (Bones of the upper limb)



下肢骨 (Bones of the lower limb)

牟田辺遺跡 SK-7 (男性・壮年)

(The skeleton SK-7 from the Mutabe site, young adult male)



肩甲骨 (The Scapula) ・寛骨 (The Pelvis)

牟田辺遺跡 SK-8 (女性・年齢不明)

(The skeleton SK-8 from the Ishiike site, female unknown age)



下顎骨 (The mandible)





上肢骨 (Bones of the upper limb)



下肢骨 (Bones of the lower limb)

牟田辺遺跡 S K-8 (女性・年齢不明)

(The skeleton SK-8 from the Ishiike site, female unknown age)